

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

【2025 年度 大学評価総評】

自己点検・評価シート「1.改善・向上の取り組み」の「(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応」において、主に 2024 年度より開始した新カリキュラムの検証の観点から取り組み内容が記載されている。各種アンケートを通じた新カリキュラムに関する意見交換、及び特に新設のオンデマンド科目である「スポーツ学入門」や少人数科目である「スポーツ学演習」について学生モニター制度を活用して運営状況が確認されたこと等は、「2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書」の S 評価に関連する箇所であり、大いに評価できる。スポーツ学演習の多摩キャンパスでの受講生の伸び悩み、及び履修証明プログラムの受講生がいなかったこと（2024 年度 B 評価）については、「2025 年度中期目標・年度目標達成状況報告書」の「教育課程・学習成果」及び「社会貢献・社会連携」の項目でそれぞれ達成指標が示されており、適切な対応がなされていると判断する。これらの点について今後の改善が期待される。

「2.全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目」の「(2) オンライン教育の取り組み」及び「(3) 学生の声を活かした取り組み」については S 評価であり大いに評価できる。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

自己点検・評価シート「II 改善・向上の取り組み」において、3 つの項目（授業アンケートの改善、新カリキュラムの検討・確定、および、新カリキュラムに対する質保証委員会・SSI 運営委員会によるレビューの実施）について「S」評価が選択されている。新カリキュラムの開始を軸としたこれらの活動は、いずれも教育改善に対して積極的に取り組んでいることを裏づけるものであり、かかる評価は適切と判断する。

2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書においては、「内部質保証」、「教育課程・学習成果」、「教員・教員組織」に関連する 5 項目について「S」、1 項目について「A」と評価されており、教育の改善に対して着実な成果を上げているものと高く評価できる。

2024 年度中期目標・年度目標において提示された、年度目標および達成指標のいずれについても、相当具体的な目標および指標が提示されている点は他学部等のモデルともなりうるものだろう。中でも、「オンデマンド授業と少人数授業について検証するため、必要に応じて教員・学生から聞き取りを行い、その結果を議論する」、「SSI 生の学習支援を実装するための方策を幅広く再検討する」といった達成指標については他学部においても大いに参考となる一般性を有していると思われるので、これらの推進に大いに期待する。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2024 年度の自己点検・評価の主目的は、本年度より開始した新カリキュラムの運営状況の検証であった。この実現にあたり、まず質保証委員として新規に 1 名の教員を増員するとともに、シラバスチェック担当委員についても、新規に人間環境学部およびキャリアデザイン学部から選出された運営委員に依頼し、新カリキュラムのチェック体制を見直した。

教育課程・学習成果に関する検証として、運営委員会後に執行部とカリキュラム委員との間で、各種アンケートの結果等を共有するなどして、積極的に新カリキュラムに関する意見交換を行った。特に新規に開講したスポーツ学入門（オンデマンドによる必修科目）およびスポーツ学演習（市ヶ谷・多摩の両キャンパスで開講した少人数科目）については、学生モニター制度を利用して両授業の受講生を対象に情報収集を行い、両科目の成果や課題に関する意見を収集した。これらの取り組みを通して、概ね新カリキュラムが順調に展開される様子について確認できた。また、教員・教員組織についても、必修化したスポーツ学入門の担当者として経営学部所属の専任教員を配置することで、教員組織の充実を図った。

学生支援においても、スポーツ学入門において学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会と連携した講義を実施し、SSI 生の充実した学生生活の実現に寄与する情報を発信した。また、ス

スポーツ心理学、コーチング学Ⅱ、スポーツメンタルトレーニング論において授業支援アシスタントを採用することによって学生支援の充実を図った。加えて、スポーツ総合演習（全学の必修科目）において SSI 生を学生補助員として積極的に採用してもらい、一般学生との交流を促進した。

一方、新規に開講したスポーツ学演習では、多摩キャンパスで受講者数が伸び悩み、次年度以降の課題となった。これについては、SSI の新入生を対象としたオリエンテーションや必修授業等を通じて学生に受講を促す必要がある。また、社会連携の一環として実施する履修証明プログラムの受講生を募集したが、今年度の受講者はなかった。本プログラムについては、リカレント教育推進課の協力の下、SSI 連携企画として「見えないところで勝負は動く」と題したオンライン講座を開催するなどの取り組みを行っている。履修証明プログラムの受講生募集については、引き続き他部局と連携しながら継続したい。

（２）改善・向上の取り組み（教育課程およびその内容、教育方法）

大学のディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果を SSI としてどのように評価しましたか。 ＜対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。＞	S. 学習成果が達成できていることが確認できた A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた B-1. 学習成果が達成できていないものがあつたことを確認できた B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた	A（学習成果が概ね達成できていることが確認できた）		
上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。				
＜理由＞ ・質保証委員会および運営委員会において、SSI のポリシーである「教養と良識を備えるアスリート・コーチの育成」が達成できているかどうか、複数の測定指標を用いて多元的に確認した。 ① 【学習成果可視化システム（Halo）】 SSI 科目の成績分布を確認した。 ② 【卒業生アンケート】 上記ポリシーに紐づく「リーダーシップ能力」「チャレンジ精神」「チームワーク力」において肯定的回答をしている SSI 生の割合を確認した。 ③ 【学生モニター制度】 モニタリング項目に「SSI で開講している科目に不足はないか」「特にどのような科目が有意義であると感じているか」「開講曜日・時限によって履修する科目は変わるか」を含めてカリキュラム全般について SSI 生から直接情報を収集することにより確認した。				
教育課程およびその内容、教育方法について、SSI として過去 4 年間（2021 年度～2024 年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から＜改善した項目＞を選択し（レ点チェック）、その詳細について＜改善内容＞＜改善した結果良かった点・課題＞を記入してください。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞				
事例 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="161 1489 438 2056"> ＜改善した項目＞ （複数選択可） </td> <td data-bbox="438 1489 1445 2056"> ☐ ①開講時期、開講頻度、授業時間等 ☒ ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） ☒ ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） ☒ ④教育方法（授業の形態、授業方法等） ☒ ⑤評価基準、評価方法 ☒ ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） ☒ ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 ☒ ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） ☐ ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 ☐ ⑩その他 </td> </tr> </table>			＜改善した項目＞ （複数選択可）	☐ ①開講時期、開講頻度、授業時間等 ☒ ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） ☒ ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） ☒ ④教育方法（授業の形態、授業方法等） ☒ ⑤評価基準、評価方法 ☒ ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） ☒ ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 ☒ ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） ☐ ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 ☐ ⑩その他
＜改善した項目＞ （複数選択可）	☐ ①開講時期、開講頻度、授業時間等 ☒ ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） ☒ ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） ☒ ④教育方法（授業の形態、授業方法等） ☒ ⑤評価基準、評価方法 ☒ ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） ☒ ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 ☒ ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） ☐ ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 ☐ ⑩その他			

《改善内容》

※理由を含めて記入してください。

新カリキュラムの開始に伴い、主に次の改善策を講じた。

- ① 市ヶ谷・多摩の両キャンパスの SSI 生における学修環境の平等性・公正性を担保するため、両キャンパスにおいて、可能な限り同じ科目を配置した。その際、従来市ヶ谷のみで開講されていた SSI の導入科目に位置づけられるスポーツ学入門を必修化することによって SSI 基礎科目のさらなる充実を試みた。また、SSI 専門科目として、少人数で実施するスポーツ学演習を両キャンパスに新設することで、多人数科目が多い SSI 科目に新たな専門科目を加えた。
- ② 新カリキュラムの開始にあたり、各科目の配当年次の見直し、科目の統廃合を実施することでスリム化を実現（2022 年度 64 科目→2024 年度 61 科目）した。また、SSI 生の新カリキュラムに対する理解を深めるために、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを再編するとともに、その内容を解説した動画や資料も作成し、SSI の HP や新入生オリエンテーションにおいて紹介した。
- ③ 長期遠征や大会参加等が多い SSI 生に対する支援として、必修科目であるスポーツ学入門とスポーツ医学をオンデマンド開講し、受講生の反応を検証することとした。特にスポーツ学入門においては、学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会による講義を展開し、SSI 生の充実した学生生活の実現に寄与する情報を提供した。
- ④ スポーツ心理学、コーチング学Ⅱ、スポーツメンタルトレーニング論において授業支援アシスタントを採用し、SSI 生の学習支援を行った。
- ⑤ 新たな評価方法として、今年度より学生モニター制度および学習成果可視化システム（Halo）を採用した。
- ⑥ 地域社会との接続の一環として、社会人を対象とした履修証明プログラムを展開しており、2024 年度は、同プログラムの学内外への周知も目的としたオンライン講座「見えないところで勝負は動く」（リカレント教育推進課、SSI 連携企画）を開催した。

（2024 年度 SSI 自己点検評価シート、第 8 回 SSI 運営委員会議事録の各記述より）

《改善した結果良かった点・課題》

- ・学生アンケートや学生モニターの結果をみる限り、新カリキュラムの各授業に対する SSI 生の評価は概ね好意的であった。特に新規開講したスポーツ学入門の履修登録者数は 465 名と前年度までの 4 倍超を記録しており、オンデマンド開講したメリットがうかがえる結果となった。
- ・一方、多摩で新規開講したスポーツ学演習は過少人数となり、次年度以降の課題となった。また、学生モニターを通して、SSI 生は金曜日の授業開講を希望していることが明らかとなった。加えて、履修証明プログラムの周知を行ったが、今年度の受講者はなかったことも今後の課題として残った。

（2024 年度自己点検評価シート、2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書の各記述より）

（3）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

教員・教員組織について、SSI として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを《項目》の中から選択し、《内容》を記入してください。

・教員組織に対する取り組み※

※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果

・授業における指導補助者（TA 等）の活用に対する取り組み

《対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。》

《対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。》

《対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》

《特色または課題》

特色

《項目》

教員組織に対する取り組み※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について

《内容》

・学部横断的なインスティテュートである SSI では、競技力の高い学生を対象として「教養と良識を備えるアスリートおよびコーチの育成」を目的とした教育課程を編成している。このため、各授業の担当者は、3 キャンパスに分属するスポーツ科学を専門とする専任教員、および他大学やスポーツ関連企業等で活躍する各分野の専門家が担っている。担当授業科目と各教員の適合性については、執行

部とカリキュラム委員が候補者の履歴書、教育・研究業績書等を多角的に確認した後、SSI 運営委員会において審議・承認している。教員の多くは、担当科目に関わる学位（博士もしくは修士）に加え、指導者ライセンス（競技別の指導者ライセンス、アスレティックトレーナー、スポーツドクター等）を有している。

各授業は市ヶ谷・多摩の両キャンパスにおいて平日の 1～3 限に配置されており、SSI 生は、各々が所属する学部・専門科目に加え、競技力向上に資するスポーツ関連の科目を同時に学ぶことによって文武両道に取り組んでいる。このような、スポーツ推薦入学試験で入学した競技力の高い学生を対象とした授業プログラムは他大学には類がなく、本学独自の取り組みであり、特色であると言える。

（第 1 回・第 2 回・第 3 回・第 4 回・第 5 回・第 6 回・第 8 回 SSI 運営委員会議事録の各記述より）

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

（1）自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

SSI における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞ ＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【S または B】と回答した場合は、その内容について記述してください。 S の場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 B の場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

（2）オンライン教育の取り組み

オンライン授業は「2024 年度以降の授業編成における留意点について（報告）」（2023 年度第 6 回学部長会議資料 No. 7）に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取り組んだ)
上記項目について【S または B】と回答した場合は、その内容について記述してください。 S の場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 B の場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》 ・市ヶ谷・多摩の両キャンパスで授業を開講する SSI では、可能な限り、両キャンパスの学生たちに同一科目を提供する必要がある。しかし、授業開始時間が異なることや通勤時間等の関係から、同一教員が両キャンパスで同一科目を展開することは極めて困難である。そこで、2024 年度より開始した新カリキュラムでは、スポーツ学入門（必修科目）をオンデマンドにより開講している。SSI の導入科目となる同科目では、学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会等による講義を展開することで、SSI 生がスポーツ科学の基礎知識を習得するだけでなく、豊かな学生生活を送るうえで有益な情報を獲得できる授業を展開している。 学生モニター制度実施報告書や教員による授業相互参観実施状況報告書の結果をみると、「キャリアセンターによる授業では、自身のキャリアについて検討するきっかけとなる授業が展開されていた」、「学生相談室の機能と役割について、SSI 生にとっても理解しやすい内容が展開されていた」、「スポーツ学入門を通して、スポーツ科学の基礎知識の習得だけではなく、欠席願の提出方法、公認スポーツ指導者資格の申請方法の他、レポートの書き方や剽窃といった大学生が知っておくべきルール等についても学ぶことができた」といったポジティブな意見が寄せられており、本授業が SSI 生の文武両道の一助となっていることが示された。 （2024 年度学生モニター制度実施報告書、2024 年度「教員による授業相互参観」実施状況報告書の各記述より）		

（3）学生の声を活かした取り組み

SSI のプログラムレベルにおいて、学生の声を	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ	S (さらに改善した
-------------------------	----------------------	------------

活かした改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	又は新たに組み込んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》 ・新カリキュラムのプログラムについて検証するために、これまで活用していた学生による授業改善アンケート、入学前アンケート、卒業生アンケートに加え、2024年度より学生モニター制度と学習成果可視化システム (Halo) を採用した。 学習成果可視化システムのデータは、SSI 科目の成績分布を把握する際の有効な資料となった。また、学生モニターでは、「SSI で開講している科目に不足はないか」、「特にどのような科目が有意義であると感じているか」、「開講曜日・時限によって履修する科目は変わるか」、「公認スポーツ指導者資格について」といった SSI のプログラム効果を問う質問項目を設定した。これらに対する回答は概ね好意的な内容であり、新カリキュラムが順調に展開されている様子が確かめられた。一方で、週末にハードな練習や重要な大会があるため月曜日の授業は敬遠しがちであること、朝練習があると1限の授業が履修しにくいこと、現行の授業配置は火曜日から木曜日に授業が集中しているため、金曜日に授業を開講してもらいたい、といった授業運営の改善に資する有益な情報も得られた。 (2024年度学生モニター制度実施報告書の記述より)		
授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。 《対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。》	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに組み込んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》 ・上記とも重複するが、学生モニターにより、2024年度からオンデマンドにより新規開講したスポーツ学入門 (必修科目) は、SSI の導入科目として適切な授業内容を展開しており、体育会活動との両立がしやすい授業であることが示された。また、少人数科目として新規開講したスポーツ学演習では、グループワークやプレゼンテーションを通して他の運動部員と情報交換することができ、体育会活動や学生生活に有益な情報を収集する好機となっていることが示された。 ・2024年度より、スポーツ心理学、コーチング学Ⅱ、スポーツメンタルトレーニング論といった複数科目において授業支援アシスタントを採用した。本制度で採用した学生アシスタントが、グループワークやレポート作成等の際に受講生の支援にあたるなど、SSI 生の学習支援の一助となっている様子が確認できた。 (2024年度学生モニター制度実施報告書の記述より)		

Ⅲ. 2024年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	内部質保証
中期目標	質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。
年度目標	2024年度から開始する新カリキュラムの運営状況の検証を目的として、質保証委員を見直す。
達成指標	運営委員会においてカリキュラム委員及びシラバスチェック担当の各質保証委員を新たに選任する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価
	自己評価 S
	理由 質保証委員を構成するカリキュラム委員として新規に1名を選任した。また、シラバスチェック担当委員として、新規に人間環境学部およびキャリアデザイン学部から選出された運営委員に依頼した。
	改善策 ー

評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標		各種ポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。
年度目標		新カリキュラムの適切な運営と定着を図るため、設置科目及びそれらの教育内容について検証する。
達成指標		1. 大学が実施するアンケート結果等を用いて、設置科目及びそれらの教育内容について評価する。 2. 運営委員会、カリキュラム委員会等において、新カリキュラムの課題や改善点等に関する意見聴取を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	1. 第4回運営委員会においてアンケート結果を共有した。 2. 第3回・4回運営委員会後にカリキュラム委員会を開催した。 3. カリキュラム委員間で、Halo データ等を共有の上、新カリキュラムに関する意見交換を行った。
	改善策	—
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		1. SSI 生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI 生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法を各授業担当教員に周知して実装する。
年度目標		1. 文武両道を目指す SSI 生の学習効果の促進を目的として開講したオンデマンド授業について検証する。 2. SSI 生における主体性の向上と学びの深化を目的として新設した少人数授業について検証する。
達成指標		1. 大学が実施するアンケート結果等を用いて、オンデマンド授業（スポーツ学入門等）及びゼミ形式で展開する少人数授業（スポーツ学演習）について評価する。 2. 運営委員会、カリキュラム委員会等において、上記授業の課題や改善点等に関する意見聴取を行う。 3. 新設したオンデマンド授業と少人数授業について検証するため、必要に応じて教員・学生から聞き取りを行い、その結果を議論する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	1. 新規に開講したスポーツ学入門およびスポーツ学演習について、アンケート結果を用いて検証した。 2. 第3回・4回運営委員会後に開催したカリキュラム委員会において、スポーツ学入門およびスポーツ学演習の課題や改善点等について意見交換を行った。 3. 第3回・4回運営委員会後に開催したカリキュラム委員会において、スポーツ学入門およびスポーツ学演習の担当教員と意見交換を行った。また、学生モニター制度を利用して両授業の受講者を対象に情報収集を実施した。
	改善策	—
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		新カリキュラムの学習成果について精査する。
年度目標		新カリキュラムの適切な運営と定着を図るため、学習成果の観点から新カリキュラムについて検証する。
達成指標		1. 大学が実施するアンケート結果等を用いて、SSI 生と一般学生、また 2024 年度と過年度を比較検討し、新カリキュラムの学習成果について評価する。 2. 運営委員会、カリキュラム委員会等において、新カリキュラムの課題や改善点等に関する意見聴取を行う。

年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	1. 学生による授業改善アンケートの結果等を用いて、授業担当教員とともにスポーツ学入門等の内容について検証した。 2. 運営委員会、カリキュラム委員会において新カリキュラム（特に新規開講科目）の課題や改善点等について意見交換を行った。
	改善策	—
評価基準		教員・教員組織
中期目標		1. 新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。 2. スポーツ研究センターおよび所属する教員と連携を強化する。
年度目標		1. 新カリキュラムの検証機能を向上させる体制を整える。 2. スポーツ研究センターやスポーツ健康学部にも所属する教員と協同する。
達成指標		スポーツ研究センターやスポーツ健康学部にも所属する教員の協力を得ながら、新カリキュラムの適性について検証可能な教員をカリキュラム委員や質保証委員に選出する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	質保証委員を兼ねるカリキュラム委員として、スポーツ研究センター所員を兼務する教員2名および経営学部所属のスポーツ科学を専門とする教員1名を選任した。
	改善策	—
評価基準		学生支援
中期目標		1. SSI 生の支援について関係部局と連携する。 2. SSI 生の学習支援の充実を図る。 3. 一般学生と SSI 生の交流を図るため関連部局と連携する。
年度目標		1. SSI 生の支援について関係部局に協力を依頼する。 2. SSI 生の学習を支援する方策について協議する。 3. 一般学生と SSI 生の交流を促進するための企画について関係部局に相談する。
達成指標		1. キャリアセンター、学生相談室等と連携し、SSI 生の充実した学生生活の実現に寄与する情報を発信する。 2. 授業支援アシスタント制度やラーニングサポーター制度等の既存資源を軸として、SSI 生の学習支援を実装するための方策を幅広く再検討する。 3. 学生センター、保健体育センター等と協同して、体育会の応援ツアー、メディアラウンジや学習ステーションでの学習、またスポーツ総合演習等において学生補助員制度を活用することによって一般学生と SSI 生の交流を促す。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	1. スポーツ学入門において、学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会による講義を実施した。 2. スポーツ心理学、コーチング学Ⅱ、スポーツメンタルトレーニング論において授業支援アシスタントを採用した。 3. スポーツ総合演習において SSI 生を学生補助員として積極的に採用し、一般学生の学習支援を行うとともに交流を促進した。
	改善策	—
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
年度目標		1. 履修証明プログラム（科目履修生）の活性化について協議する。 2. 千代田区コンソーシアムと連携して、SSI 科目の拠出を検討する。

達成指標		1. 履修証明プログラムの実施・運営に協力しながら、関連部署と協議する。 2. 関連部署と連携し、科目の拠出について検討する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	1. 履修証明プログラムを募集したが、今年度の受講者はなかった。 2. スポーツ学入門において学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会による講義を開講した。
	改善策	引き続き、履修証明プログラムへの科目拠出を継続する。また、スポーツ学入門、キャリア支援科目等において、外部講師、外部諸団体による講義を実施し、社会連携の機会を増やす。
【重点目標】 1. 2024 年度から運用する新カリキュラムの適切な運営と定着を図るため、新カリキュラムについて検証する。 2. SSI 生の充実した学生生活の実現に資する方策について検討する。 【目標を達成するための施策等】 1. 新カリキュラムについて検証するため、次の取り組みを行う。 ①質保証委員を再編する。 ②大学が実施するアンケート結果等を活用する。 ③SSI 運営委員会、カリキュラム委員会等において意見を聴取する。 2. SSI 生に対する支援として、次の取り組みを行う。 ①関連部局と連携し、SSI 生の充実した学生生活の実現に資する情報を発信する。 ②授業支援アシスタントやラーニングサポーター等の活用について検討する。		
【年度目標達成状況総括】 2024 年度は新カリキュラムの適切な運営と定着を図るため、新規に開講したスポーツ学入門（オンデマンド授業）およびスポーツ学演習（ゼミ形式で展開する少人数授業）を中心に各授業の課題や改善点について検証した。この実施にあたり、主に次の3つのことを実施した。①質保証委員としてスポーツ科学を専門とする教員1名を新規に選任し、シラバスチェックを担当する教員についても、新規に2名の教員に依頼した。②「学生による授業改善アンケート」「授業形態に関する学生対象アンケート」のデータ提供を申請することにより、各授業について検証する際の資料を収集した。③春学期終了後に開催した運営委員会およびカリキュラム委員会等において、新カリキュラムに関する意見交換を行った。 また、SSI 生に対する支援として、次の取り組みを実施した。①スポーツ学入門において、学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会の協力のもと、メンタルヘルス、キャリア教育、ハラスメントの対策といった充実した大学生活の構築に不可欠な講義を提供した。②新カリキュラムの円滑な進行と SSI 生の学習支援を目的として、スポーツ心理学、コーチング学Ⅱ、スポーツメンタルトレーニング論において授業支援アシスタントを採用した。以上のことから今年度掲げた目標は、概ね達成できたと認識している。		

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	質保証委員会における実効的な内部質保証を安定化させる。
年度目標	2024 年度より開始した新カリキュラムの運営状況の検証を主な目的として、質保証委員を再編する。
達成指標	質保証委員会を構成するカリキュラム委員及びシラバスチェック担当委員を新たに選任する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	カリキュラムポリシーに準じた新カリキュラムの科目とその内容を精査する。
年度目標	SSI 運営委員会、質保証委員会等において、新カリキュラムの運営状況について検討する。

達成指標	各学期に質保証委員会を開催し、学習成果可視化システム (Halo) 、卒業生アンケート等の各種データを用いて各科目の成果や課題について検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	1. SSI 生が文武両道を実現するための多様な学習方法について検討する。 2. SSI 生が主体的に学び、学びを深める上で有用な教授方法について検討する。
年度目標	新カリキュラムの実施に伴い新規開講したオンデマンド授業及び少人数制授業の教育方法の改善点等について検討する。
達成指標	教員へのインタビュー、学生モニター制度、各種アンケート結果等を用いて、新規に開講したオンデマンド授業及び少人数制授業等の教育方法を評価する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	新カリキュラムの学習成果について精査する。
年度目標	1. 新カリキュラム全般の学習成果について検討する。 2. 新規開講したオンデマンド授業及び少人数授業について検討する。
達成指標	1. 大学が実施するアンケート結果等を用いて、SSI 生と非 SSI 生、また 2024, 25 年度と過年度を比較検討し、新カリキュラムの学習成果や改善点について検討する。 2. 運営委員会、質保証委員会等において、新カリキュラムに関する意見聴取を行う。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	新カリキュラムを編成し、運営していくための体制を強化する。
年度目標	1. 学内外の諸機関や組織との連携を深める。 2. 専任教員による授業担当を促進する。
達成指標	1. 学生相談室、キャリアセンター、大学スポーツ協会等による講義を継続する。 2. SSI に関わる専任教員が SSI 基礎科目を担当するように働きかける。
評価基準	学生支援
中期目標	SSI 生の学習支援の充実を図る。
年度目標	1. SSI 生の支援について学内外の部局に協力を依頼する。 2. 学内の学生支援制度を活用する。 3. 一般学生と SSI 生の交流を促進するための企画について関係部局に相談する。 4. 学生モニター制度を活用する。
達成指標	1. キャリアセンター、学生相談室等と連携し、SSI 生の充実した学生生活の実現に資する講義を引き続き展開する。 2. 複数の授業において授業支援アシスタント制度を活用する。 3. SSI 生に学習ステーションを紹介し、利用するよう促す。 4. 学生モニター制度を活用し、学生の修学面における課題点や授業内容、受講方法に係るニーズを把握し、可能な学生支援を検討する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	SSI が所有する資源を有効活用する方策について検討する。
年度目標	関連部局と連携しながら履修証明プログラムを運営する。
達成指標	履修証明プログラムの受講者を確保する。
【重点目標】 新カリキュラムの運営状況について検証する。 【目標を達成するための施策等】 1. 質保証委員会の人員のさらなる充実を図る。 2. 教員へのインタビュー、学生モニター制度、各種アンケート結果等を用いて、新規に開講したオンデマンド授業及び少人数制授業を中心に、新カリキュラムの成果や課題について検証する。	